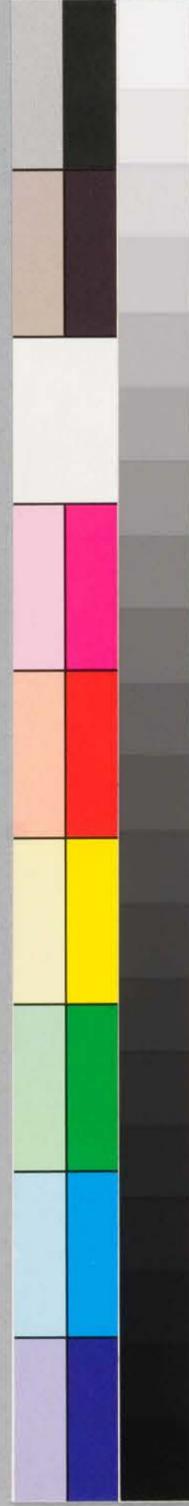


增補  
系八

小思西園記  
五



小兒心用養育草卷之

目錄

- 一 痘疹收靨の時甚毒患れ候
- 二 痘疹收靨の後米泔水こめのうぎみの湯ゆをひかす候
- 三 痘疹落痂かさの時良薬患れ候
- 四 わり印しるし免痘いぼの毒どくを解げらる候
- 五 麻疹ましんの候
- 六 水痘みずいぼの候

小兒心用養育草卷之

目錄

小兒必用養育草卷五

牛山翁 香月啓益

集

一 痘瘡收靨乃時多惡乃況

○痘瘡十日と経く血盡毒解く其膿涸く乾き葡萄  
菊乃色れおとくちりては鼻乃ぬれあひの乳面よ  
りせそ下りて胸腹よりりも足より及ひくわのぶ  
とくよより下には歩くよ收靨もせば力も軟く  
氣色収く飲食つねのぶとく小便赤なりあつくら  
と順毒といひく茶と服するよ及りぬるよ  
○收靨乃時痘瘡れ潤いくらなくせらぬると流漿と

名つて此は膏の氣弱なりなり保之湯  
 前よと大料やうく用べしと云ふれは痺ききき  
 て救ふ所にいふはさく瘡を大形に取らるや  
 十日後にさくせらるは必敷と云ふ病出るもの  
 八月九日れあいなよよく飲食せつて肉をわ  
 ぬやうよとべしその時かハ病家もほくれ病  
 なる眠るくゆげん出来そのらるる年老る女  
 乃物に別く性静るると付さく瘡乃色病れ  
 ありて此若くと醫師はかやういひてハ他ハ  
 かく飲食せつて一とわいさなよその害  
 子ハ乳母乃食せつて一と色色熱乃銀と  
 ぬ

厚く怒とわと云ふぬやうよと一しゆハ  
 一とわいさくゆげんその害ハよそのぶ  
 最乃病者よりハ飲食せ色熱とまゆとつて  
 けれと瘡と瘡をれせけ二つとつてさ  
 らび瘡とく乳よりるなり他ハ  
 ○此身の中とせさはうらよすハ長月有腐爛く白く  
 古ゆて白くなり者ハ患証なり  
 ○收瘡の時よりさく飲食せつてすまはに膏  
 つねよ物と喰らふとくさるは動くさるは  
 者ハ九死一生なり  
 ○此身ハ瘡瘡收瘡よりさく汁膿出く  
 知身ハ

臭さるる近づくべうらみやうらる者ハ患症より收  
醫の時ハ膿汁知く爛着ハ衣敷とりつとく膿さ  
びよりく縮の衣敷いあし瘡多し出らるものハ膿  
の付よりをりりり布れらびうと給よりし  
まきしびしおのくよ縮の衣敷をきりし  
びららり

○收醫乃時熱をくして澹言といふ者ハ患症より  
○收醫乃時定けおく振い慄きと牙と咬眼ふさりり  
足冷らものハ死に至らる大料乃參附湯を二條之  
湯を氣湯をこれ敷ら合く用べらる  
○收醫乃時熱身痒く搔破せハ膿水出る事ハ皮持

く醫乃皮れおとくちる者ハ患しぬく瘡瘻ハ始  
申於若子痒ハ患症より患しぬく瘡瘻ハ始  
さるる者ハ瘡瘻ハ患症より患しぬく瘡瘻ハ始  
き者と患症より患しぬく瘡瘻ハ始

○患乃瘡收醫より患症より患しぬく瘡瘻ハ始  
りらるれ九死に至らるべし以上乃法記ある方保嬰  
海保赤金出たと醫治法記ある方保嬰  
○收醫の時或ハ忽ちとく瘡痛しその痛中膿  
りる者ハ患症より患しぬく瘡瘻ハ始  
くと瘡りハ痛む者ハ患症より患しぬく瘡瘻ハ始  
と用べし

- 牛房子
- 生白芍薬
- 桃仁
- 乳香









○瘡疥収斂腐るはるの瘡瘡しくある事あり因と  
 離れしと粘りしと毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 紅ゆして凸凹せしと毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 くちりしものと順症とく毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 ○瘡瘡する瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 ハ毒を以て瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 ○瘡瘡する瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 ハ毒を以て瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 ○瘡瘡する瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 虚征るり補中益氣湯子川芎酒芍薬連翹と加て  
 く用べし

○瘡瘡する瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 ○瘡瘡する瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 大便結結し小便赤く流者ハ餘毒はしるるなり  
 餘毒と解し大連翹と用べし  
 連翹 牛房子  
 藜藜 赤芍 防己 木通 車前子 荆芥  
 酒黄芩 酒炒山梔子 滑石 牡丹 蝉退  
 右利しして生薬とありて煎下服せしむる  
 去るし神乃ありし

○瘡瘡する瘡瘡と毒を以て瘡瘡するの瘡瘡  
 一服子梨乃汁とぬるし又ハ枳椇乃汁とぬるべし枳椇

ハ和名けんかのなりとらるる也

○痲疹と云は痲疹と云は黠玉或ハ凹凸なり者ハ惡瘡  
なり乳者乃未と云らりめりくはし

○痲疹と云は兩目むくくすなり目乃光と云く或ハ  
睛まおすもむくくす者ハ眼乃うつら瘡なりと云る  
べし子ハ瘡よくよとの目醫作よつと云く瘡治ら  
ざるを瘡目乃内よ出ふま瘡乃五毒と云汁よ  
らうと云よれらうと云

○痲疹と云は唇はわらハ齒根ハ鼻乃孔子瘡なり  
く膿出く臭ハ瘡乃餘毒と云打捨く瘡治せ  
れハ鼻崩き頰破きと云死に候らり大連朝飲

出らうと云べしと云る神れおと

○痲疹と云は身ハの痲疹痒きと云らりハ瘡  
と云ハ瘡証らり保之湯と云べし

○痲疹と云は身ハの痲疹と云風瘡乃おとくよる  
証なりと云子具乃者瘡汁よそはハそらほらと云るこ

○痲疹と云は曲池 臂のわきより 足乃脛中 膝乃内のわき  
腋下乃身ハ節くは瘡乃毒瘡と云く瘡乃おとく

と云くはハ骨乃うらよ瘡乃多骨疽附骨瘡と  
云のやうよ骨乃うらと云瘡乃よりと云く一生瘡守愈日

と云子瘡と云者ハ子足瘡と云るあつられを和名  
瘡乃餘毒と云ふと云る瘡と云十宣内托敷或ハ

小兒心胃論卷之五

七

補中益氣湯子連翹酒黃芩山梔子防風と加へて用  
べしその効多し外に六米溲水と炭火を煉りて煎  
平乃其と玉燻けりて細末にこれよませりて  
せいの痰愈るなりこれ紫紫の野人の傳なり 啓益  
つねよりるそとる一と多かり

○痲疹く後膿出くは膏弱く痲痕よりけ出わ  
るを痲痕灸れ腸乃水がせりてらけおとくなり  
黄芩れ薑と焙乾し一と細末にこれよませり  
すら愈るなりこれ痲疹のゆかりなり  
○痲疹愈るは少くも一と園中よの庭よとく土産  
よく遊ばむべし一日十日とくもるべし香紙にて

多し死はゆとの多しとれと紫紫なりとせは痲疹に  
よ遊とゆふ多し痲疹のはゆふ十日も痲疹とんり  
とゆふとゆふ中花の書よあつてはよの京外東  
武などめてはゆふとく人れいぬゆふを紫紫乃た  
めてとまむとゆふとゆふ痲疹は皮膚をさすこと  
氣らどれあれとゆふとゆふ事愈るなりとゆふと  
結風のもよゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

○痲疹乃後種ことゆふ十日重きものそ七十めり或  
は百日ゆふと保書性ゆふと乳飲子ハ新母のつし  
こととゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

方一なり魚鳥の肉油あげり致すの介臟抽り致食  
とぐり以外を風室暑濕の毒とぐり一とぐり毒  
のこの他は漬去り致れ致方く勤志む事なれ  
傷乱舞とけりゆりれを治と歩けり一は此  
又兼る後より方一色慾ありといふ一はさなり  
くはぐりゆりゆり而目なれは瘰癧の病とりあり  
なり一能くゆりゆり事なり

④ 何れが瘰癧の毒と解らるは後  
○ 諸の醫者も預りて瘰癧の毒と解らる薬方と  
のりゆりゆり一 本邦ゆりも醫者も亦伝と稱  
一秘方と号し一瘰癧の薬ありと用んてねもり

とよれ醫者も預りて瘰癧の毒と解らるは後  
なり瘰癧ももは毒せんトく其けりそ治らるゆ  
りも是は外よりけりゆりゆり一害なり此毒ゆり  
トきとゆりゆりハ瘰癧もけりゆりゆり

○ わりかた瘰癧の毒と解らるは雄黄と生かす  
ゆり殺しゆりゆり肉とゆりゆり煮みゆり焼くゆりし  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
本邦ゆりもゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

山本心用証書五





りいゆいへくはく神乃辯りうとつひく瘡疹と総  
 くは居者水わりとを諸人よあてある思まふぬの華  
 け者水とつけてゆめは治るれ湯のこちに入くとし  
 て洗ふまゝさあのをけ者水治のまゝむけ者あとの  
 足河しひをどらわぶうかゝびこらうやと察察  
 わうく身中は細かり瘡出来りその何れ神志  
 けらわろまどい瘡ととろく減り瘡終るびと  
 くぞらあつてひくはれ水治れどけく新いれたわ  
 えうとちりあやうしうけくきららひも瘡とま  
 ぬがれどその上をさ瘡やぬらうき後まよくまけ  
 漆の糞下汁と水ままぞく者水と名付たは二鳴



よこらつらばいしてんとまどつひかりけ漆乃毒よ  
わらうくやんさとりていその疹そのまき愈る事なく  
して疹つくよある者ありとされい卵よりなりとるん  
妨ぐいとむりもさうべ能くやめざるなり

五 痲疹の記

○陳文宿の記子痲疹乃二証を子胎毒の可き証なり  
く痲疹ハ五臓より發するその疹大に一と二とれ  
びく痲疹ハその毒之腑より出るとその疹小に  
麻の實れびく發熱乃時傷寒に似くくげく  
きく咳嗽をひりやうく聲啞くやん咽喉痛に乾  
き咽喝く湯水と飲らむらぬく一室熱一あり

あし、身體は乃甲子すさるなく出く故乃喰れ  
る疹のびく或ハ粟粒のびく出く疹熱退きや  
日一自或ハ百才日二方にく疹子收るものハ痲疹子  
く毒根あるよ及いさゆなりとくく

○疹子發熱時まげ升麻葛根湯その毒を疹子の  
子加減くく用くやう一熱はくハ黄芩芍薬連翹を治  
防風と加くやう一熱汗出るものハその毒汗よさる  
かみく出やう一熱嗽甚きものハ参苓熟地  
考へ子黄芩芍薬白朮と加くやう一咽痛ものハ葛  
根桔梗と加く一黄芩連翹と加くやう一  
○疹子發熱時ハ風寒よあり内ハ生れ冷地の歌

と念ひらるるれ同神を子製はれとあるれとらるる  
 ぞ病人外より冷るると好之内よりハ生れ冷れと含  
 らるとぬびよらるるけ禁とおうく内外より冷く疹  
 子物る事わくして悪化を要するものをとせと交被  
 とをくしく汗とぬいべー  
 ○疹子容熱の時咽喉痛く飲食入らず津と吐  
 らるるが候ものわらるるれと急化るるれと  
 みるるなるれ疹子付た毒を盛るる候なりと黄  
 連・黄芩・桔梗・石膏・黄柏・其中 右利り  
 水煎りて服すべー或ハ定めの又ハ膈噎と畜(並  
 むその水ゆて煮つド用らると此ハそのなる一神はぶと

られた候方るる大なる病なれハとハ此醫作と  
 こく治るるべきなり  
 ○疹子容熱の時ハは乾き咽留らるるれと  
 しぬすは冷水とのと或ハ梨子蜜梅熱衝をく  
 合らるるるくしてさるるれ疹収るる候病は要す  
 るものあると疹子ハ粒をれと疎乃病をよて死ぶる候  
 とれあると何れも湯とあえく冷水生れとあ  
 うあるるれつー此とさるる  
 ○疹子出る時腹痛泄候一或ハ自利とて大便がら  
 しく通ぶるもの候と或ハ赤白の痢病とらるる  
 あるとれらる悪化なりとや疹よとて醫作と

多れくく疹のたぐい一升麻葛根湯に當歸川芎  
防風黃芩黃連栝樓類米を加へて用ゝる効神  
れどく

○疹子出る時ある吐逆とせしもの多しやはハ嘔吐を  
わきまてとせしもの多し疹子出つてん時之ぬぐつ吐もむ  
そのかり疹出つてくも吐逆ぬぐぬものハ惡化らり  
あく疹以上もの醫師は遠く疹治とせしむる  
は疹と治らるハ升麻葛根湯に二陳湯を合へて  
服せしむる一ありり連翹を加へてせしむ

○疹子あつち付どりみせ收里或ハ一日一敷るハ  
粒一二百粒の比あり之四も收すぬとせハハ惡化  
かり早く疹き上りハ醫師とせし疹治とせしむ  
るく足すの處らるなり升麻葛根湯に玄参子  
と合へ當歸黃芩を加へて用ゝる効とせしむ  
る

○疹出く甚色紅かりハ赤かり葉葉也ハ九死一生  
とせしむ

○疹子乃伝られと疹子あつち付どりみせ收里  
ぬぐり細きを保赤ありせむぬぐの猶きらとせしむ  
ける疹ハ白敷とせしむる疹子ハ一ありの中  
に多し葉むるせらるるべしゆゆとせしむ  
卵より細きとせしむる事とせしむる一ハハ惡化

つゝびびきりるを物さよのへ四午のふとすらうと禁ま  
と拾べしきまのち七午のふらるるよのび  
何も瘡れ禁忌とゆめづくまぶさるるに

○世らよ瘡疹は清のらり時やんよ各りる事なれ自  
然ありしなりを愈ぐらうとせばそくやくいせと  
づこありとやん瘡疹はれ物れりありあつてこれも  
よく愈らるるにやん瘡疹はれ物れりありあつてこれも  
らよ瘡疹とられぬそのあよ熱毒の清りらるるに  
らび瘡癰とらるるをれりるにこのはれ物れりるに  
あつて瘡疹をよまらるるに

六 水瘡の癩

○陳文宿は瘡は水瘡乃は心火の熱毒二なるをまらび  
しそ瘡出るなり感ハ咳嗽一面前眼のひり水瘡  
ぶく瘡とおれどりて出るるに収るるも収  
る一始然其らありて其瘡水瘡とらりありて収ま  
るありとらるるに 本邦の人はれをみづらよひふ  
あよらるるに収るるにぬ瘡治禁忌らるる瘡疹

瘡の事

○瘡瘡ハ人乃一生瘡をまらるるに収るるに瘡疹水  
瘡ハ人乃一生瘡をまらるるに収るるに瘡疹水  
らるるに収るるに瘡疹水瘡ハ人乃一生瘡をまらるるに  
収るるに瘡疹水瘡ハ人乃一生瘡をまらるるに収るるに

○麻疹水痘れり收靨るは夜とびふびとく赤痢水  
とまうく活るべきなり湯のうらうらやうのけやう  
痘も多るなり湯とくけては風寒とくけては傷寒  
とくべきなり

小児必用書 卷五 目録

目録

- 一 小児抱と見れる時らうれ教る候
- 二 和信児子と柏子振動と教る候
- 三 男女れ小児抱とらひ抱けりし時の教れ候
- 四 和信児子と破磨弓羽子紙書并馬屋手炊  
りれ戲とるさうしる候
- 五 男女乃小児と教梅れ候

小兒必用書卷六 去月 去月 去月 去月

牛山翁

香月啓益

漢

① 小兒物を見知る時より教る説

○ 王隱又乃説小兒生きたる十日乃後瞳人定ま  
 るるも是より人となん識く語らばよく教ふるやと  
 あり其時をさかすべく言ひておし育子のせきく  
 奉まはひてあかき見ゆるやとつてども必病を生  
 し是より御子人と罵怒りなどらる事と好こり礼  
 乃きばし出るものなるを怪しむるやとつてども必病  
 子笑ひてらばあかきとらる時を乳母又はあめりつる人

小兒必用書卷六

ねんごに兒は辨くけ方よ里をねぐるりさる  
やうよをさやせに兒もよくあつらひくさの人ねまね  
とてくわらぶぶとくするものぢりあつちるさハハの  
りふりもや人びとせびく客忤の病と察え  
るすめ

○おん倫は兒生れく二百半日堂肯定ま保け  
時よりく座らるり匍匐くつぷより事と教へ  
二百六十日よいきりくハ乳母の乳をよけて歩け  
より事込教へあむいありとくさるり 本邦の人  
もわくはぶとくさる事あり御く兒まんとさる時ハ  
乳母の乳をよけてきらくせりいくさるり

へ漸く歩けせんといふ時ハあむくといひく歩け  
より事込教へし候きろ家いたるその兒とせり  
すぐく抱こくねとあるよよりくあむハハの  
もおろく歩けらる事もおろけものへ能くさる

二 和信兒は抱子振頭と教れ候

○和信兒は抱子とて識とて教へ時よれハ乳母の乳  
まづ教る子抱子といふ事とせりしりあむわが  
日本れ右様よ貴さ人と教へる時抱子といひく  
いと合くは事あり 持統天皇御後よ御を  
四月よ云御百友列座く迎ねまらりくさる  
めく礼らると日本紀よらるり周礼といふ中記かん

書も九折のそのじつは振動とあるは子振動と  
今倭人と日中人の振礼はあまを合くうのうと  
とるよりあつれど 日本いあ一より倭人なる礼法な  
里今れ世をどうなりといふよりさういふ  
くあるをれきく神る者る教神と振る時子抱  
とくあまを合くうのうと用らあると都部若高  
人交易の時きういよとさうのうもお海方と  
礼法なるなりなりや中兒よまが抱子と教り  
礼と教り初にくゆき遺法なりと振動い  
やといふを教りなりと礼なりと和訓といやと  
われは又礼儀と教りなりと人なりと礼なり

畜類もゆめ申るなりし神理より氣と相き體  
あり人なりと礼なりと人なりと氣と相き體  
なりと

三 男女乃少兒也と云い初て子時乃教り

○禮記乃四則よ父のく合と合ふ時を右のよと  
申込教べしと云く又禮の合より下中子とあま  
をいけり此の時り合と合ふ時乃他法と教り  
一とるし少兒の合はあはくハ飽期と云い乳母の  
心ゆきと云いハ一兒子啼りあまの志をくその  
知れんと其まその教とあはくは悦ばしむる  
兒合と云いハ一子啼り申ぬしとれと姑息と



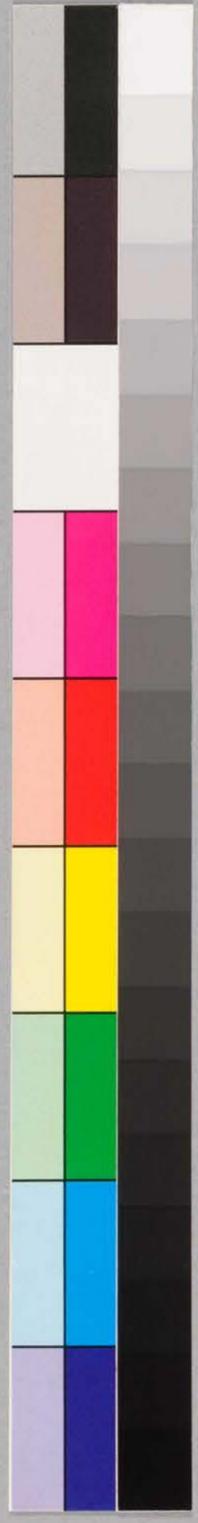


と乃云るなりと云るなり紙巻と云 日本り少前めい  
のりりれ申すなり 本邦よても多く見よけ紙と云  
ういひるゆかりけはの俗は其の意と云いさび者と  
れと好く紙巻と云ふなり其のたせおとんころりあて  
を紙とらるるを巻と云くつけく健なり男子は拳  
させくきと人の目と云うことしひる申すことあり  
紙と費はのこよあり其巻なり 紙巻の紙と云  
ういひるゆかりけはの俗は其の意と云いさび者と  
れと好く紙巻と云ふなり其のたせおとんころりあて  
を紙とらるるを巻と云くつけく健なり男子は拳  
させくきと人の目と云うことしひる申すことあり  
紙と費はのこよあり其巻なり 紙巻の紙と云

○毎年月女子ハ染草子ハ紙とほけを極めて  
はうまじりたりとされとこきれりと云づくらるるは  
こころよまのうまれ形ハ似たりと云うなりこのこ  
とよふもの敷山ハありと他ありてそのものなりその  
うま山紙子ハ形乃ありと云うて山紙子よりいふは  
乃はきこむくしく紙ハ巻くわきハそのまゝ染草子  
子よそのの紙とほけとらぶとくそのなり世は因る合  
よハおとねまをぬく蚊よくりぬぬまのひるまやと  
いふなり 若葉 紙はりハはハありどしやんハ紙はりよ  
きまぬれハけ紙と云るやしんく風子ぬれをよ  
むらうくまんとくうまんとく紙はりもらんは紙はり



小児遊戯巻六



いつれの代より去くド先ん事よ男ね子れ残る  
と尋るれとやめくづさなり倭子よあつら  
んよそののあまきなり

○男れあめあまれは同一年れのれあなり  
みずみずかたりふんばうく感ハ并るは報の  
の戯れなる武とありて免あつと健よなりれ  
なりいつきも乳母感ハつささうあれ者をら  
けそやん怪象とせぬるうの遊び戯きあひ  
○女乃事ニニ事なりハ放すとり子戯れとなれ  
たなよ遊とあはくあつら果は乃やんあつら  
合は放くやねとらる事やあつらあつらあつら

なれ共浅英の徳は中へハおと水と伝報よそあそ  
りしきハその藝器の事教とく病やとくこれ  
ハ和信け戯とありやしつらハけさるや又左いん  
とあつら根中うく女内と治りつらとほやぞあ  
よや飯放まねとあつらあつらあつら

○男女乃やんは教誨は伝

○男子ハ心おのりあつらあつらあつらあつら  
りりものなりそれあつらあつらあつらあつら  
始の居あ墓乃りやつらあつらあつらあつら  
の戯きよあつらあつらあつらあつらあつら  
あつらあつらあつらあつらあつらあつら







教のりてやへば家とては家なりとて教の先入の  
言とて言とてやへば家とては家なりとて教の先入の  
えらるるの一生の涯に徳教とてをせられたるは  
さなとてえらるるの教とては教とては教とては教と  
かり接の船は舟とては舟とては舟とては舟と  
あるまはるるの教とては教とては教とては教と

○も習けり所要なりとも習けり所  
ハ一代乃西他なるるなり子細に徳教とて守り  
書といひてははるるなり

○も習ひてははるるなり  
ゆふとてははるるなり

とてははるるなり

和信を来言とてははるるなり

さひるるなり

さるるなり

まづははるるなり

徳教なり

まづははるるなり

徳教

徳教



乃あやしくくくも留仕時の儀法とつらむいふく  
 ○後去乃の方らり四書め經小學近思錄未ら六  
 勿論もひへさなりを印符又も教とも素漢は七  
 そのふくハ所傳はまふはべし又その教はく富貴貧  
 賤はあさぐのそのまらるる飛龍翔はまらるるし  
 ○信とやうりむさるる信ハ 日出乃信樂といひ  
 るがう少分淨瑠璃の教ハ鄭聲とい名別けりて  
 都鄙者ハ符節と合とらるるごとくはくおぢるの  
 おくたこと不易れ青樂なればらるるぬいぢりたる  
 ちきたけりりりぬぬさるる猿ふもむくくは  
 まらるるハ士ハ舞はるる舞とぬま君も不長とぬ

傍輩とも云ふとはわし身れち事よもむむあう  
 有代乃知りよもなるる教ぬ一高ハけとぬ  
 ちあくつとむれはその教織とらるるぬぬ  
 るはよハけとぬと云立けり猿ふれ仲よある教は  
 け方礼舞教の教ハ礼文け事なりをけ時信は  
 小器用ケりていんを教はその子れを看よひれと世  
 子を化者とぬいひんも器用をすむぬぬはけを  
 ぬとさるるゆなりけ器用は器用なるもすこぬぬも  
 大くこむくくむむむむむむ  
 ○諸種おまへるぬり小器用器用とめてハ八分は  
 たり素礼百返と定りて毎りたるハちりりり

立廻りより互にせしむる暇より進退度より互に  
 ぞしれ精もゆよあつらひは後居越よんをけり  
 とあもぬるゆも自然とゆきし長子なりく人前  
 物くもき居少るまひとけりあして武士きくもの  
 へ他へ使者へゆきよ他ありまの使者とさうつぎ  
 るも使者参り有れ役たよりうりさうりきと申死の  
 人さへ回るし使して君命と恥ぢるはとりのくもさ  
 子さされいんや日本ハ武とものりくさくお下  
 に互流とらふ雨をれい切さく人れ急警しんし  
 ○茶後ハ本邦乃信礼るうと下りてあまぶるま  
 れハ一途一通りのおぼさるるりナ草もせいさるの序と





ついでに  
 ○射りたる御るるはる共徳乃徳義ハ武家ノ高格な  
 わいその御とをあげてりや及りぬるハまじく驚き  
 後文武士ハいつりあさつらあふつさハ刀脇指ノ後  
 形なま一何れとふやけはゆりゆりも刀後とをさ  
 じんハ何の用もまらんや刀ハ一の刀ぬぐと信の後なる  
 なり

○兼利ける十歳ともあふるをさつらつと付ぬ地  
 了れ武士などハ兼利といふ高貴の業はくも武士  
 んものすまじき事ハもあふるあつらふ事ハ一は僻  
 事しむくハ兼利氏康のいけるに付てハ氏綱老功

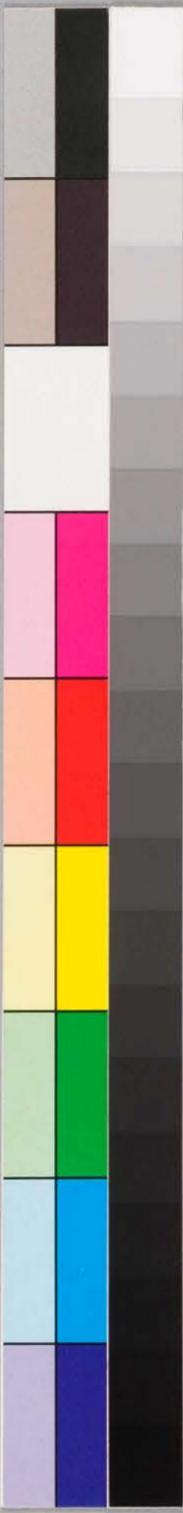
乃后と石集く氏康己は十歳とゆふ何のり業を  
 うあつらつらとれぬハ大道とといふ老功ハゆられ  
 中ハ兼利とまじけはあつらふと云ふハ近  
 のあつらふ目いさ鼻いさ知せりと氏綱ハあひつ  
 と突つたそたる寺がまをま括り書よ共と説  
 めハ目よめとと費とと説ふハ共食の多業と説  
 めとつたれハ人ハ将とハ者ハ兼利とあつらへてハ  
 軍旅のり綱とつらへたる寺はつらとよく説き  
 尸ハ後ハり吻黄らる者れあつらふハ氏康の  
 業ハれぬハ下ハ兼利とあつらふと云ふハ氏康の  
 相つらふは傳く物とそれと天文地理ハ業とあつらふ

兼利氏康

卅六







子れ申とられ地下がりの内儀有りケ極よとら  
 ちる登ハ傍若無人れ者ありいとなきとあるりこれ  
 とともよく教へまはのき者よあるその中みけんとす  
 ぬ者よありておの用よきぬ者なり是こゝなるその科  
 ハ父母れおと著よひつねとまを姑息とつてむれり  
 ありは色ハ聖人も人その子の悪きとある事ゆ  
 その苗れ頑なる事とあるりおとと戒めぬるし人  
 父母より者つねよけ語と膺よつけておりのあり  
 その子と教へていりなりその教れおとハ聖賢乃備  
 じ言らりいままあるはありありのありて婦  
 人思まはつるは後と後とのありし

99  
5186

元禄十六年 未付秋日

牛山翁

香月先生著

子れ申とされ地下がりの内儀なりケ極よそごら  
しる言ハ傍若無人れ者なりしとすまてあるりこれ  
とそよく教へまはし者よあるそのゆくゆけとす  
ぬ者よりりて物の用よきぬ者なりそまなその科  
ハ父母れを著よひつれとキと姑息とつとむれらと  
あたりは色ハ聖人も人その子の悪きゆとある事ゆ  
その苗れ頑を中とあるゆゆと戒めぬるし人志  
父母より者つねよけ語と膺よつけておのひりあそく  
その子と教へてゆなりその教れおのひり賢乃諸去  
よ詳らりいま家よあるゆハ万分ぐひのゆと婦  
人思まはつるよ役と後とのゆとし

99  
5186

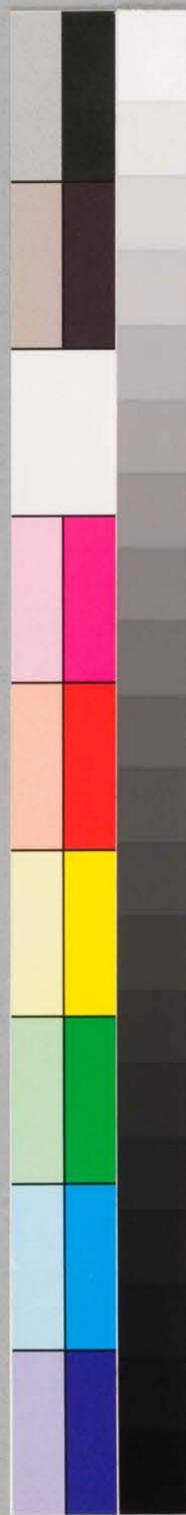
元禄十六年

未仲秋日

牛山翁

香月先生著

川村丹次郎  
香月先生著





小治政  
文庫

110815

